

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立南小学校	校長	岡田 恵子	生徒指導主事	森林 竜也
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『繋がり・関わりを深めるペア学年クラスマッチ』
-------	-------------------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション力」	1	「主体性」	2	「自らへの自信」	3

取組のねらい					
--------	--	--	--	--	--

異学年交流を通して、他者とよりよく関わるために必要な態度を身に付けるとともに、児童が主体となって活動を運営することにより、自己肯定感の涵養に繋げる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 意図的関わり』
----------	---------------------------

(1) 学校の課題を基にした児童会の立案  
「コロナ禍で他学年との交流が少ない。行事ができない。」  
⇒全校単位でなく、複数学年による活動  
⇒「大縄跳び」「リレー」を種目に設定し、学級、縦割りで実施計画について話し合う。

○児童会企画として立案することで、児童の主体性を高める。  
○種目を「大縄跳び」「リレー」に設定することで、教え合いや応援など関わり合いを生む。

(2) 事前の取組と計画の改善  
・学級会、体育の時間を活用し、練習を行う。  
⇒うまく活動できなかった点を振り返り、計画の改善を行う。

○各学年事前の練習から、児童会の提案内容について各学年実態に応じて改善を図らせる。

(3) クラスマッチの実施  
・児童会、学級委員を中心とした会の運営（進行・審判等）  
・関わりを生む活動の工夫（応援・ペア活動等）

○司会進行・表彰なども児童主体で行い、役割意識を持たせる。  
○児童相互のよい関わりの姿に対してその場で「肯定的評価」を返す。



(4) 事後の取組  
・頑張りを相互評価する活動  
⇒1年生に6年生から折り紙のプレゼント  
⇒6年生に1年生からお礼の言葉



○相互評価の活動とすることで、相手意識を持った取組が生まれ、より主体的に活動することができる。

取組の成果と課題					
----------	--	--	--	--	--

○9割以上の児童が、活動の振り返りにおいて肯定的評価であった。特にペアとして活動した1・6年生の児童においては、異学年交流に対する肯定的評価が高かった。

●その後の関わり合いに繋がるような、意図的な仕組みづくりができず、交流を広げたり深めたりできなかった。